

## 基本目標4 安心して生き生きと暮らせる環境の推進戦略

## (1) 現状と課題

本市の現状としては、まちの基幹産業であった炭鉱の閉山を大きな要因として、住民基本台帳上では、昭和35年4月の63,360人をピークに減少が続き、平成27年8月末の現在の住民基本台帳人口は9,310人となり、この50年余りの間で約54,000人が減少しました。

それに伴い、少子高齢化が進み、人口最盛期であった昭和35年の国勢調査においては65歳以上の高齢者人口が1,912人で全人口に占める割合が3.4%に対し、平成27年8月末現在の住民基本台帳では、4,217人で全人口に占める割合が45.3%となり、人口で約54,000人の減少に対し、高齢者は逆に約2,300人増加し、率にして約42%の大幅な増となっています。

この状況は、全国25.1%、北海道27.0%と比較しても本市は高齢化が顕著に進み、全国的に高齢化の問題がクローズアップされている中で特に高い数値となっているのが現状です。

このように本市は、高齢者が人口の45.3%を占めている状況から高齢者が健康で長く生き生きとした生活が送れるよう高齢者やその家族、市民が健康づくりに関心を持ってもらうように、生活習慣病や介護予防の推進が求められています。

また、本市は毎年平均8mの降雪があり、北海道の中でも特別豪雪地帯になりますが、特に近年は、地球温暖化による異常気象とみられる平年以上の降雪や全国で起きている集中豪雨のような集中的な豪雪が平成23年度から続き、この豪雪により65歳以上の高齢者の転出が増加している状況です。

その状況としては、平成22年度の降雪量が約6mの時の1年間の転出者数367人の内、65歳以上の高齢者が57人で率にして15.5%に対し、平成23年度に降雪量が約12m、平成24年度に約10m、平成25年度に9mとなった時の平成25年の1年間の転出者数317人の内、65歳以上の高齢者が82人で率にして25.9%と豪雪時に転出数と転出率が上昇している現状です。

市民アンケートにおいても、転出希望者の24.3%が「雪が多くて寒さが厳しい」ことを理由としています。

以上のことから豪雪地帯の暮らしの厳しさに起因する転出が顕著であり、本市にとって深刻な課題となっているため、高齢者が安心して快適に暮らし続けられる冬の環境づくりの推進が求められています。

このような高齢者対策の推進が定住にも繋がり、ひいては人口を維持することにも繋がると考えています。

また、本市全体に及ぶ高齢化の影響として、商業経営者の高齢化や店舗の老朽化などにより、市内小売業者数の減少という問題が顕在化しています。

状況としては、炭鉱産業全盛期であった昭和32年に市内商店は402店舗ありましたが、平成19年には159店舗、平成24年には95店舗と昭和32年と平成24年の比較では50年あまりの間に307店舗の減少となり、平成19年と平成24年の比較ではわずか5年間の間に64店舗が減少しました。

この影響から市内にすし店などの消滅する業種が現れ、今後、市民生活において安心した生活を送る事への不安感が増大している現状です。

今後の予想としても経営者の高齢化や後継者不足の状況から推察すると、商店がより一層減少し市民生活に影響が出るのが予想されます。

このことから、市内中心部に「そこにいけば最低限のモノが揃う」という商業機能や高齢者と子育て世代が安心して集うことができるコミュニティの場の拠点整備が考えられます。

また、各地区の市民コミュニティの拠点である市民センター（市内8か所）を活用し、高齢者、子育て世代、子どもも含めて誰でも気軽に集え、各種相談や健康チェック、健康教室などの展開を図る各地域の集いの場の創設が考えられます。

さらに、少子高齢化に伴い、北海道を代表する盆踊りの一つである本市の北海盆おどりなどのイベントや地域における若者の人材不足が顕著であることから、他自治体との広域連携による大学などとの連携などを模索した中で、本市へ若者を呼び込み、まちづくりや地域振興に寄与することが考えられます。

地域医療については、市民の命と健康を守る大切な社会基盤ではありますが、市立三笠総合病院は、地域の基幹病院として一般病床を有する市内唯一の病院であり、これまで地域の一次・二次医療、救急医療を行う基幹病院として、他の医療機関と連携を図りながら、市民の生命・健康を守り地域住民が安心して暮らしていけるよう医療サービスを提供してきましたが、医師や看護師不足、診療報酬の引き下げ、築50年を経過した施設や医療機器の老朽化により修繕に要する経費の増大や人口減少に伴う収入の不足と相まって、単年度赤字が発生する状況から市の一般会計での貸付や補てんをしているのが実態となっています。

市民アンケートでは、今後の重要度として、回答者の87%が「病院などの医療施設」をあげています（やや重要も含む）。

これからも医師確保や経営安定を図り、高齢社会に対応した効率的・効果的な医療の提供体制を実現するためには、他の自治体とも連携した病院の運営が考えられます。

また、市民の安全・安心を守るため大きな役割を果たしている、各種防災・防犯、交通関係団体などが高齢化などにより、組織力の低下が進んでいる状況にあります。

その対策が必要とされている中、市民の安全・安心を守る要である三笠警察署の分署化の問題が浮上し、富良野・道東圏ルートとしての交通量の増加に伴う交通安全対策や三笠高等学校開設による若年層の増加及び高齢者の増や人口減少による空き家増加などに伴う犯罪率の増加などの対応強化策が求められているのが現状です。

これからも、市民の安全・安心を守るため、三笠警察署の存続・堅持が絶対的に必要です。

## （2）現状数値

- 高齢化率 H22 42.3%→H27 45.3%（平成22年国勢調査、H27.8住民基本台帳）
- 高齢者数 H22 4,327人→H27 4,217人（平成22年国勢調査、H27.8住民基本台帳）
- 平均寿命 男性 H16 74.6歳→H22 74.7歳、女性 H16 82.3歳→H22 83.5歳（すこやか北海道21）
- 健康寿命 男性 H16 72.7歳→H22 73.6歳、女性 H16 78.3歳→H22 80.5歳（すこやか北海道21）
- 高齢者の転出数及び率 H22 57人（15.5%）→H25 82人（25.9%）（住民基本台帳）

**(3) 関係する市民アンケート結果**

○「住み続けたい」「当分の間住み続けたい」「市内の他地域へ転居したい」と回答した割合81.5%、  
「市外へ転出したい」17.3%

- ・「住み続けたい」理由として「除排雪がよく冬の生活がしやすい」5.5%、「交通や買い物など日常生活が便利である」6.7%、「医療・福祉が充実している」1.6%
- ・「市外へ転出したい」理由として「雪が多く寒さが厳しい」と回答した割合24.3%、「買い物  
が不便」39.9%、「医療・福祉面が不安」33.8%

○現在の満足度と今後の重要度

- ・「健診など健康増進」で満足・やや満足と回答した割合17.0%、不満・やや不満とした回答割合17.4%、重要度で重要・やや重要と回答した割合52.4%、重要ではない・あまり重要ではないと回答した割合1.8%
- ・「病院などの医療施設」で満足・やや満足と回答した割合4.7%、不満・やや不満とした回答割合73.8%、重要度で重要・やや重要と回答した割合79.5%、重要ではない・あまり重要ではないと回答した割合2.0%
- ・「冬道の除排雪処理」で満足・やや満足と回答した割合21.4%、不満・やや不満とした回答割合40.2%、重要度で重要・やや重要と回答した割合69.9%、重要ではない・あまり重要ではないと回答した割合1.4%
- ・「住環境整備」で満足・やや満足と回答した割合15.7%、不満・やや不満とした回答割合22.1%、重要度で重要・やや重要と回答した割合41.7%、重要ではない・あまり重要ではないと回答した割合1.7%
- ・「買い物など日常生活の利便性」で満足・やや満足と回答した割合8.1%、不満・やや不満とした回答割合57.7%、重要度で重要・やや重要と回答した割合63.0%、重要ではない・あまり重要ではないと回答した割合1.5%
- ・「商店街の活性化」で満足・やや満足と回答した割合2.7%、不満・やや不満とした回答割合63.3%、重要度で重要・やや重要と回答した割合67.8%、重要ではない・あまり重要ではないと回答した割合3.3%

**(4) 数値目標**

指 標	基準値	目標値（平成31年度）
「冬道の除排雪処理」について、満足・やや満足と回答した割合	21.4% （平成27年調査）	25.4%
「健診など健康増進」について、満足・やや満足と回答した割合	17.0% （平成27年調査）	21.0%
平均寿命	（男）74.7歳 （女）83.5歳	（男）76.0歳 （女）85.0歳
健康寿命	（男）73.6歳 （女）80.5歳	（男）75.0歳 （女）82.5歳
集積された商業地区	—	1か所

(5) 施策ごとの基本的方向

① 冬を克服し生活できる環境整備の推進

本市は豪雪地帯に位置し、従来からも冬季における雪対策は住民生活の安全・安心を確保する上での重要な課題として取り組んでいましたが、高齢化率が45.3%となるほど市民の高齢化がより深刻化し、中には除雪を苦に転出する方が出てくるなど、住み続けることができる地域づくりに向けてより一層の対策が必要となっています。

従来型の雪対策や冬に強い住環境整備を今後も進める一方、厳しい冬の環境を克服するための新たな対策として、市内に内在するエネルギーを活用し、除排雪の負担を軽減できることや、暖房費などの負担を軽減できることなどに着眼した冬快適プランを策定し、それに基づく施策の展開を図ります。

ア 重要業績評価指標

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (平成26年度)	目標値 (平成31年度)
ぬくもり除雪サービス事業利用率 (降雪の影響が大きい緊急除雪を除く)	19%	30%
冬快適プラン事業進捗	—	8%
市営住宅建替改善等事業	4棟	5棟

イ 具体的事業

	事業名	事業内容
(ア)	道路除排雪事業	道路の除排雪を実施し、冬期間の安全かつ円滑な交通を確保します。
(イ)	ぬくもり除雪サービス事業	高齢者や障がい者が安心して冬を過ごせるよう、間口や屋根などを除雪するサービスを安価な料金で実施します。
(ウ)	冬快適プラン事業	市民が快適に冬を過ごせるよう、市内に存在するエネルギーの活用や従来型雪対策の改良を複合的に検討して冬快適プランを策定し、必要な施設を整備・管理します。
(エ)	市営住宅建替改善等事業	市営住宅の建替えを実施し、市民の快適な住環境を確保します。冬の除排雪等の負担を軽減し、人口の市外流出抑制を図ります。

② 地域が最低限持続できる商店街機能の整備と子育て世代や高齢者が安心して集うことができるコミュニティの場の整備

人口減少や市場の変化などにより、当市の商業は後継者不足や廃業などが続いており、平成6年度に141件あった小売業が平成26年度に68件になるなど、商業機能の低下が深刻化しています。

そうした現状の中、買い物面で住民生活に不安のない地域づくりを推進するため、市内中心部に生活に必要とされる業種がテナントとして入店する商業施設と一体的に高齢化率が高い当市の地域性を考慮した憩いの機能や屋内遊具など少子化に対応した空間を合わせ持つコミュニティ形成の拠点施設の整備を目指します。

ア 重要業績評価指標

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (平成26年度)	目標値 (平成31年度)
集積された商業地区	—	1か所
商業施設整備事業進捗	20%	100%
商業施設整備後利用数	—	5,000人

イ 具体的事業

	事業名	事業内容
(ア)	商業施設整備事業	市民が安心して生活できるよう、日常生活に不可欠な商業テナント及び多様な世代の市民が集うスペースを設置した商業施設を整備し、商業機能の充実整備を図ります。

③ 市民が安心して暮らすことのできる環境の整備

本市は少子化が進む一方で、平均寿命が着実に延び、高齢化が急速に進み、特に本市は、高齢化率が全国平均を大きく上回り、すでに超高齢社会に突入しています。高齢者が、元気に安心して暮らせる環境づくりと、仕事や子育てからはなれた方が、日々生きがいを持って暮らせる環境が必要です。

そのためには、高齢者や障がい者が快適に生活でき、これまでの知識や経験を活かし、自ら地域社会に参加する環境づくりが求められているほか、健康上の問題がなく日常生活を送れる状態である「健康寿命」の延伸が求められています。

そのことから、地域医療における近隣市との連携やがん検診の受診率向上、水中運動教室などの実施により健康寿命の延伸に寄与する事業を進めるほか、地区市民センターをコミュニティの拠点施設として地域福祉活動を推進します。

また、市民の安全・安心な暮らしを守るため大きな役割を果たしている、三笠警察署の存続・堅持に向け要望活動などを推進します。



## ア 重要業績評価指標

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (平成 26 年度)	目標値 (平成 31 年度)
がん検診等向上比率 (受診率が H26 年と比較して向上した種類の数)	—	100%
水中運動教室延参加人数	1,671 人	2,500 人
敬老祝い温泉入浴券利用率	89%	90%
高齢者バス利用助成事業バス券交付率	38%	40%
地域の集いの場	—	8 か所
ふれあいチーム設置数	3 か所	5 か所

## イ 具体的事業

	事業名	事業内容
(ア)	健康診査・がん検診事業	特定健康診査、各種がん検診の実施や一部検診の助成を行い、疾病の早期発見及び予防を図ります。
(イ)	水中運動教室実施事業	生活習慣病予防、介護予防の推進として水中運動教室を実施し、市民の健康の保持、増進を図ります。
(ウ)	敬老祝い温泉入浴券助成事業	高齢者が家族などと楽しむ機会となるよう、9月の敬老月間に温泉入浴券を交付し、健康の保持・増進、生きがいづくりを支援します。
(エ)	高齢者バス利用助成事業	高齢者のバス利用料金の一部の助成により外出を支援し、閉じこもり予防や介護予防、認知症予防を図ります。
(オ)	長寿祝い金交付金事業	永年にわたる貢献に感謝の意を表するとともに相互扶助の精神、高齢者福祉への理解と関心を高めるため、100歳(百寿)と88歳(米寿)の記念に長寿祝い金を交付します。
(カ)	地域の集いの場の創出	地区市民センターをコミュニティの拠点として位置づけ、高齢者、障がい者、親、子どもなどに開放し、各種相談や健康チェック、健康教室などを実施し、地域福祉活動を促進します。
(キ)	小地域ネットワーク活動促進事業	町内会などの小地域を単位として結成され、一人暮らし高齢者などへの声かけ、見守りなどの活動を行うふれあいチームに対し、活動費の一部を補助し地域福祉活動を促進します。
(ク)	地域医療における近隣市との連携	地域医療については、市民の命と健康を守る大切な社会基盤であることから、その中核を担う市立三笠総合病院について、これからも医師確保や経営安定を図

		り高齢社会に対応した効率的・効果的な医療提供体制の充実を目指します。
(ケ)	市民が安全・安心に暮らすための取り組み	市民の安全・安心な暮らしを守るため大きな役割を果たしている、三笠警察署の存続・堅持に向け要望活動などを推進します。

#### ④ 学生地域定着自治体連携プロジェクト

若い世代の地域定着のため、学生時代から地域と接点を持つことが重要であることから、広域的な視点で、江別市内大学と関係機関、同市、芦別市、赤平市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町などと連携し、大学生の地域定着や交流による人材の活用、さらに大学の知的資源の活用などが促進される新たな仕組みづくりを進めます。

##### ア 重要業績評価指標

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (平成 31 年度)
学生受入数	—	12 人

##### イ 具体的事業

	事業名	事業内容
(ア)	学生地域定着自治体連携プロジェクト	江別市内大学や関係機関、同市、芦別市、赤平市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町などと広域的に連携し、大学生の定住、就職、地域定着や大学の知的資源の地域活用などを促進する新たな仕組み（協議会）を構築し、運用します。また、大学生に市の魅力をPRし、市内への転入を促進します。